

人材養成および教育研究上の目的

エネルギー・環境システム工学専攻においては、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究などを通して、高度な研究者、技術者を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）			
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）	
＜博士課程後期＞			
<p>工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（工学）の学位を授与する。</p>			
知識・理解	<p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するために豊かな学識を得る。(DP1) 研究に必要な知識を得て、研究で生じる事象・現象を科学的に説明できる。(DP2)</p> <p>【到達指標】 世界における学生の研究に関連する分野の研究動向の把握する。(DP1, DP2) 当該論文における研究成果の位置付けを的確に示せる。(DP1) 単位を取得する。(DP1) 博士論文の審査に合格する。(DP1, DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 本専攻は、熱エネルギー工学、電気エネルギー工学、都市環境工学、環境材料工学、環境プロセス工学および資源循環システム工学の6専修から構成されている。関連する専門分野の研究指導科目と専門分野の境界分野を加えた特修科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 専門科目に習熟した指導教員、授業担当者によって少人数教育を行い、一人ひとりにきめ細かい指導を行い、専門の先端的学識、研究に必要な知識を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 単位習得状況により評価する。(DP1, DP2) 博士論文に審査により評価する。(DP1, DP2)</p>	<p>【求める学生像】 本専攻では、人材養成・教育研究上の目的を達成するために、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究に興味・関心を持っている者、またそれらの深い専門知識と探求創造能力を身につけることに強い意欲を持っている者、さらにそれらを通じて特にエネルギー・環境分野において地域ならびに国際社会に貢献ができ、また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者を目指す者の入学を求めている。</p>
技能	<p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するために、必要な高度の研究能力、研究を遂行するための技術・技能を身につけさせる。(DP3)</p> <p>【到達指標】 研究の新規性を確保するために必要な設計・計測・計算技術を身につける。(DP3) 研究成果の新規性、信頼性および有効性、論文の形式や表記の適切性、叙述の明確性などの論文作成能力を身につける。(DP3) 博士論文の審査に合格する。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 博士論文作成に精通した研究指導者により、技術・技能を身につけさせるために、特別研究、特別演習等の研究指導科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 学生の自主性を重視すると共に、より優れた研究成果があげられるように一人ひとりにきめ細かい指導を行い、博士取得に値する研究を行うのに必要な設計・計測・計算技術や、論文の作成能力、プレゼンテーション技法、コミュニケーション力など技術・技能を習得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究指導科目、博士論文審査において、博士取得に値する研究を行うのに必要な設計・計測・技術技術を身につけたかどうかについて評価する。(DP3) 研究指導科目、博士論文審査において、形式や表記の適切性、叙述の明確性などの論文作成能力を博士論文、プレゼンテーションなどから評価する。(DP3)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 多くの学生や社会人および外国人留学生に進学の門戸を広げるため、次の試験を用意する。 一般入試 英語、専門試験、面接を実施して研究歴や研究計画を確認する。福岡大学大学院工学研究科博士課程前期修了者は専門試験を免除する。 社会人入試 小論文、面接(小論文及び研究計画書による口頭試問を行う)を実施する。 外国人留学生入試 一般入試と同様である。ただし、最終学校を修了・退学した後、入学時に日本国内での社会人経験3年以上の者は社会人入試と同じである。 日本語コミュニケーション・英語コミュニケーションについては、語学検定試験のスコアについて評価する。</p>
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するため、問題を世界的な研究状況から最適な解決方法を見出す態度・指向性を身につけさせる。(DP4)</p> <p>【到達指標】 研究テーマの学術上の意義を理解し、研究成果を社会・技術の世界での様々な問題に活かそうとする意欲がある。(DP4) 博士論文の審査に合格する。(DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 博士論文作成に精通している研究指導者により、学生の自主性を重視すると共に、より優れた研究成果があげられるように一人ひとりにきめ細かい指導を行う研究指導科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 少人数あるいは一人ひとり個別に指導して、博士研究にふさわしい研究テーマの設定、それへの取り組み方を身につけさせ、研究や高度な問題解決のための必要な道筋・効率の良い方法を見出す態度・指向性を身につけさせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究指導科目では、研究テーマ設定を含む研究への取り組み方、成果の出し方・進捗状況などにより評価する。(DP4) 博士論文に審査により評価する。(DP4)</p>	

人材養成および教育研究上の目的	
エネルギー・環境システム工学専攻においては、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究などを通して、高度な研究者、技術者を育成することを目的とする。	

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程後期＞		
工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士(学術)の学位を授与する。	工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	工学研究科エネルギー・環境システム工学専攻では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するために、工学の分野を超えて複数の分野・領域にまたがる豊かな学識を得る。(DP1)</p> <p>【到達指標】 世界における関連分野の研究動向の把握および当該論文における研究成果の位置付けが的確に明示できる。(DP1) 当該論文における研究成果の位置付けを的確に示せる。(DP1) 単位を取得する。(DP1) 博士論文の審査に合格する。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 本学専攻は、熱エネルギー工学、電気エネルギー工学、都市環境工学、環境材料工学、環境プロセス工学および資源循環システム工学の6専修から構成されている。関連する専門分野とその境界分野を加えた特修科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 専門科目に習熟した指導教員、授業担当者によって少人数教育を行い、一人ひとりにきめ細かい指導を行い、専門の先端的学識、研究に必要な知識を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 単位習得状況により評価する。(DP1) 博士論文に審査により評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 本専攻では、人材養成・教育研究上の目的を達成するために、エネルギー問題の解決のためのエネルギーの生成、変換、伝達及び輸送に関する研究、環境問題に対処するための都市環境、廃棄物の処理・再資源化技術、環境に優しい材料の開発、環境に適合した化学プロセスや装置の研究に興味・関心を持っている者、またそれらの深い専門知識と探求創造能力を身につけることに強い意欲を持っている者、さらにそれらを通じて特にエネルギー・環境分野において地域ならびに国際社会に貢献ができ、また高い倫理観を持って工学に携わる高度な研究者や技術者を目指す者の入学を求めている。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するために、必要な高度な研究能力、研究を遂行するための技術・技能を身につけさせる。(DP2)</p> <p>【到達指標】 研究の新規性などを確保するために必要な設計・計測・計算技術など研究に必要な技術を身につける。(DP2) 研究成果の新規性、信頼性および有効性、論文の形式や表記の適切性、叙述の明確性などの論文作成能力を身につける。(DP2) 研究をわかりやすく説明するためにプレゼンテーション技法、コミュニケーション力など表現技法・技能を習得する。(DP2) 博士論文の審査に合格する。(DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 博士論文作成に精通した研究指導者により、技術・技能を身につけさせるために、特別研究、特別演習等の研究指導科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 学生の自主性を重視すると共に、より優れた研究成果があげられるよう一人ひとりにきめ細かい指導を行い、博士取得に値する研究を行うのに必要な設計・計測・計算技術などの技術や、論文の作成応力、プレゼンテーション技法、コミュニケーション力など表現技法・技能を習得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究指導科目および博士論文審査において、博士取得に値する研究を行うのに必要な設計・計測・技術技術、表現技法を身につけたかどうかについて評価する。(DP2) 研究指導科目および博士論文審査において、形式や表記の適切性、叙述の明確性などの論文作成能力、およびプレゼンテーションを評価する。(DP2) 一般投稿論文や国際会議・研究会・学会での発表件数および内容で評価する。(DP2)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 多くの学生や社会人および外国人留学生に進学の門戸を広げるため、次の試験を用意する。</p> <p>一般入試 英語、専門試験、面接を実施して研究歴や研究計画を確認する。福岡大学大学院工学研究科博士課程前期修了者は専門試験を免除する。</p> <p>社会人入試 小論文、面接(小論文及び研究計画書による口頭試問を行う)を実施する。</p> <p>外国人留学生入試 一般入試と同様である。ただし、最終学校を修了・退学した後、入学時に日本国内での社会人経験3年以上の者は社会人入学と同じである。 日本語コミュニケーション・英語コミュニケーションについては、語学検定試験のスコアについて評価する。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】 高度な専門的な業務に従事するため、問題を世界的な研究状況から最適な解決方法を見出す態度・指向性を身につけさせる。(DP3)</p> <p>【到達指標】 研究テーマの学術上の意義を理解し、研究成果を社会・技術の世界での様々な問題に活かそうとする意欲がある。(DP3) 博士論文の審査に合格する。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 博士論文作成に精通している研究指導者により、学生の自主性を重視すると共に、より優れた研究成果が挙げられるよう一人ひとりにきめ細かい指導を行う研究指導科目を設置している。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 少人数あるいは一人ひとり個別に指導して、博士研究にふさわしい研究テーマの設定、それへの取り組み方を身につけさせ、研究や高度な問題解決のための必要な道筋・効率の良い方法を見出す態度・指向性を身につけさせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究指導科目では、研究テーマ設定を含む研究への取り組み方、成果の出し方・進捗状況などにより評価する。(DP3) 博士論文に審査により評価する。(DP3)</p>	